中野区教育委員会会議録

平成２７年第４回臨時会

平成２７年７月２３日

中野区教育委員会

平成２７年第４回中野区教育委員会臨時会

○日時

平成２７年７月２３日（木曜日）

開会　午後７時０１分

閉会　午後９時２２分

○場所

中野区役所５階　教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長　　田辺　裕子

教育委員会委員　　渡邉　仁

教育委員会委員　　田中　英一

教育委員会委員　　小林　福太郎

○欠席委員

教育委員会委員　　増田　明美

○出席職員

教育委員会事務局次長　　奈良　浩二

教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当）　　辻本　将紀

教育委員会事務局副参事（学校教育担当）　　石濱　良行

教育委員会事務局指導室長　　杉山　勇

中野区立中学校教科用図書選定調査委員会委員長　　鈴木　一男

○書記

教育委員会事務局教育委員会担当係長　　金子　宏忠

教育委員会事務局教育委員会担当　　髙橋　綾菜

○会議録署名委員

教育委員会教育長　　田辺　裕子

教育委員会委員　　小林　福太郎

○傍聴者数

０人

○議題

１　協議事項

（１）平成２８年度使用教科用図書の採択について

○議事経過

午後７時０１分開会

田辺教育長

ただいまから教育委員会第４回臨時会を開会いたします。

本日の会議は定足数に達しております。

本日の会議録署名員は、小林委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

ここでお諮りいたします。本日の協議事項、「平成 28 年度使用教科用図書の採択について」は、公正を確保するため、採択過程にあっては、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第１項の規定に基づき非公開と定めておりますので、本日の教育委員会の会議についても地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第７項ただし書により非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

（以下、非公開）

（平成 27 年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開）

＜協議事項＞

田辺教育長

それでは日程に入ります。

協議事項、「平成 28 年度使用教科用図書に採択について」の協議を行います。

ここでお諮りいたします。本日の協議事項に関連して、中野区立中学校教科用図書選定調査委員会の調査報告を行っていただくため、同委員会委員長の鈴木一男さんに会議への出席を求めたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、中野区立中学校教科用図書選定調査委員会委員長、鈴木一男さんに会議にご出席いただくこととします。

それでは鈴木委員長、どうぞご着席ください。

初めに、本件協議に当たりまして、事務局から教科書採択に係るこれまでの経過につい

て報告をお願いします。

指導室長

それでは、初めにこれまでの教科書採択事務につきまして、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則及び要綱に基づきまして、滞りなく進行してきたことをご報告申し上げます。本年度の中学校の教科書採択は、15 種目延べ 66 種が採択対象となってございます。研究対象は 129 冊でございました。

それでは、経過を報告いたします。まず、本年４月 24 日、第 12 回定例会におきまして、中学校教科用図書の採択基準についてご決定をいただきました。併せて、選定調査委員会、学校等に示します調査研究の項目を決定していただきました。また、学校、保護者、区民からの意見聴取の方法についても決めたところでございます。また、５月８日第 13 回定例会におきまして、中野区立学校教科用図書選定調査委員会委員の決定をいただきました。この委員会は、規則に基づきまして、学識経験者３名、校長、副校長３名、教諭等３名、保護者代表３名、公募区民３名、計 15 名の委員による構成の委員会でございます。５月 11 日に第１回目の選定調査委員会を開催いたしました。その後７月 13 日までに計５回にわたりまして選定調査委員会を開催し報告書を作成いたしました。その結果につきましては、この後、鈴木委員長よりご報告をいただきます。なお、選定調査委員会には、下部組織として教科ごとの調査研究会からの報告、学校意見、保護者・区民意見につきましても報告をして、慎重にご協議をいただいたところでございます。

続きまして、教科書展示会についてご報告申し上げます。法令に基づきまして、中野区教育センターにおいて教科書展示会を開催いたしました。期間は６月９日火曜日から７月２日木曜日までの計 24 日間でございました。そのほかに、５月 21 日から７月 14 日までの期間、四つの区立学校において各 12 日間、巡回展示をいたしました。各会場、教育センター及び四つの区立学校に意見用紙と回収箱を設置いたしまして、保護者、区民意見の聴取の場としたところでございます。

続いて、学校意見の聴取でございます。学校の調査研究、意見聴取のために教科書を三つのコースで巡回いたしまして、学校ごとに全ての教科書について調査をしていただいたところでございます。経過についての報告は以上でございます。

田辺教育長

続きまして、中野区立中学校教科用図書選定調査委員会、鈴木委員長から、選定調査委員会の調査報告をお願いいたします。

鈴木委員長

選定調査委員会、委員長の鈴木でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、教科用図書選定調査委員会ですが、学識経験者３名、区立中学校の校長先生と副校長先生３名、区立中学校の教員の方３名、区立中学校に在籍する生徒の保護者３名、区民３名の計 15 名から成る委員会です。選定調査委員会は、本年５月８日に設置されました。第１回の会合は、設置された日の翌週の５月 11 日に開会し、その後、６月 22 日、６月 29 日、７月６日、７月 13 日の計５回の委員会を開会し、全ての教科書について調査しました。なお、調査を進めるに当たり、中野区における教科書採択の基準に沿って調査を進めてまいりました。それでは、これから選定調査委員会の活動についてご報告させていただきます。

５月 11 日に第１回の委員会が開催され、そこで今後の方針等が示された後、選定調査委員は中野区立学校教科用図書の採択に関する規則、要綱、採択基準等、中野区教育委員会の教育目標、指導目標、中学校学習指導要領などの資料をいただきましたので、約１か月間、教科書展示会場等でまず教科書をよく読み込み、また、教科書趣意書なども参考とし、６月 22 日からの第２回目の委員会以降、それぞれ２時間程度の中で国語から英語まで、教科種目ごとの教科書について、各々忌憚(たん)なく教科書について意見交換を行ってまいりました。現場の教員からは、現在使っている教科書と比較し、どのような教科書が使いやすいか。保護者委員からは、保護者の立場として子どもたちにとって学びやすい教科書はどれか。区民の委員からは、それぞれの立場からのご意見や、中野の子どもたちに親しみやすい教科書はどれかというような視点でそれぞれ種々様々なご意見をいただきました。ただ、全体的には採択基準である学習意欲の喚起される教科書や、生徒にとって学びやすく、教師にとって教えやすい教科書という点で多く議論されていたような形でございます。教科書を使うのは、勉強が得意な子どもたちばかりではなくて、苦手な子どもたちもおります。そういった子どもたちにも、いかにして興味関心を引き出すような工夫があるか。題材は選んでいるか。また、教師にとって使いやすいという意味で、教材の配列やページ使用量が適切かどうかについても、議論の中で話題に上がりました。

加えて、現在、中央教育審議会でいわゆるアクティブラーニングが議論されていますが、現在の学習指導要領にも、基礎的、基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、それらを活用して思考力、判断力、表現力を養うことや、自ら進んで学ぶ態度などを育てることが示されており、そうした力を身に付けさせるにふさわしい教科書という視点も大

変重要な視点ということで議論を進めてまいりました。本日、全ての議論した教科をお話しすることは難しいので、幾つかお伝えさせていただきます。例えば、理科では子どもの学習意欲を高める取組として、理科を学ぶことの意義を伝える教科書が注目されました。現在、中学２年生で実施している就労体験の授業等と絡めて、今、理科の授業で学んでいることは社会のこのようなところで役立っていくということなど、理科と日常生活や職業とつなげるような取組が大切だと示されました。

また、教師の側にとっては、安全面についての配慮がどれほどなされているか。実験中に地震が発生したらどうするか。目に薬品が入ったときはどういう手当てをしたらよいかなど、教師もベテランの先生ばかりというわけではなく、新任の若い方もいらっしゃると思いますので、こういったことは非常に教えていく上で役立つのではないかという意見もありました。また、社会や地図については、たくさんの資料を載せている教科書が大事だという意見がありました。地理的分野や歴史的分野の中で、領土問題については非常に多く取り上げられましたが、今の中学生が将来しっかりと我が国の領土はどこからどこまでかを少なくとも理解して、きちんと説明できるということは、やはり必要なことかと思います。その点に関して、領土問題についてきちんと教科書で取り上げることの大切さが示されました。

雑駁（ぼく）でございましたが、以上で選定調査委員会における報告とさせていただきます。そのほかの教科につきましては、大変恐縮ではございますが、お手元にございます教科用図書選定委員会報告書に記載させていただいておりますので、後ほどごらんいただければと思います。本日の報告及び資料がこれからの教育委員会における教科書採択の協議を進めるに当たり役立つことを願っております。

以上で報告を終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

田辺教育長

ありがとうございました。

続きまして、事務局から中野区立中学校教科用図書選定調査委員会調査研究会の研究結果の報告と、中野区立学校教科用図書の採択に関する要綱第２条に基づく、学校、保護者及び区民からの意見についての報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、最初に資料の確認でございます。本日の資料は、皆様のご机上のフラットファイルにとじてございます。開いていただきまして、最初に「教科用図書選定調査報告書」、

続きまして「中野区立中学校教科用図書調査研究一覧」ということで、調査研究会の報告でございます。続きまして、学校意見、保護者・区民意見というふうにつづられております。そちらをごらんいただければと思います。

それでは、まず調査研究会の報告をいたします。選定調査委員会の下部組織に当たるものでございます。4月24日にご決定いただきました調査研究項目に基づきまして、詳細な研究をしてございます。この研究会でございますけれども、委員は校長を委員長とした中学校、教育研究会等で研究をしている教員が委員となっております。

資料の説明でございます。国語をお開きいただきますと、初めに概要版として、全発行者の一覧が載ってございます。めくっていただきますと、発行者ごとに詳細な形で報告をさせていただいてございます。同じように、書写、地理等につきまして、概要版、それから詳細版という形で報告をさせていただきます。内容につきましては、後ほどごらんください。

続きまして、学校の意見でございます。学校の意見でございますが、経過報告でもお伝えいたしましたけれども、学校には教科書巡回の機会、それから巡回教科書展示会や、教育センターでの展示会を活用していただきまして、全ての教科書について調査研究項目に基づく研究を実施して、報告書を作成、提出いただいたものを集約してございます。

最後に、保護者・区民意見でございますが、これも経過報告でご説明いたしましたように、教育センターにおける教科書展示会、四つの区立学校での巡回展示の場に意見用紙と回収箱を設置して意見を聴取いたしました。内容といたしましては、１番目に、中野区の子どもたちにとってどのような教科書がよいかということ。２番目に、教科書採択に当たって教育委員会に望むこと。３番目にその他となってございます。意見の総数は91件。教育センターが52件、区立学校巡回分が39件でございます。これはいただいた意見を基本そのままの形で列挙してございます。調査研究会、学校、保護者・区民の意見の報告は以上でございます。

田辺教育長

それでは、ただいまの各報告につきまして、質疑がありましたらお願いいたします。ご意見、ご質問等よろしいですか。

質問がないようでしたら、以上で報告を終了いたします。鈴木委員長、本日はご出席ありがとうございました。どうぞご退室ください。

（鈴木委員長　退室）

田辺教育長

ありがとうございました。

続きまして、教育委員会、教育委員宛ての要望書などがございましたら、報告をお願いします。

指導室長

それでは、本日午前中までに５件の要望書等が届いてございます。本年４月 20 日付けで「中野の教育を考える草の根の会」より。４月 30 日付けで「中野母親連絡会」より。５月 14 日付けで「東京弁護士会」より。７月１日付けで「自由法曹団」団長名で、それから、７月 15 日付けでファクスにより「韓国・アジアの平和と歴史教育連帯」より要望書等をいただいてございます。内容は資料をごらんいただきたいと思います。

以上でございます。

田辺教育長

ありがとうございました。

それでは、ここで本件協議の進め方についてお諮りいたします。

本件協議に当たりましては、原則として、選定調査委員会の調査報告を踏まえ、教科種目の教科書ごとに協議を行いたいと思います。その際、まず各委員から順にご意見を伺います。ご意見を伺う順番は、私から順に指名をさせていただきます。その後、協議を行い、採択候補とする教科書を決定いたします。

最後に、特別支援学級で使用する教科書について協議し、採択候補とする教科書を選定したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、そのように協議を進めることに決定いたしました。

それでは、協議に入らせていただきます。初めに国語について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、渡邉委員、お願いします。

渡邉委員

今回、国語の教科書は、東京書籍、教育出版、学校図書、三省堂、光村図書出版の５者の中から選択ということで見させていただきました。

選定のポイントとして、一つ注目すべき点としては、読む、話す、書くというような形で国語を少し考えてみたことと、やはり言語活動が多く示されているというような形で検

討をさせていただきました。それぞれの教科書、内容的に非常に甲乙つけがたいようなものでありました。選択するに当たっていろいろと検討いたしましたが、やはりその中で私としては現行使われている教育出版、そして、光村図書出版の国語の教科書がよくまとまっているのではないかなというように感じております。それで、特に光村図書出版の中で私が注目した点は、東日本大震災の記述がされていたということが一つ重要なポイントとさせていただきました。そして、話すこと、書くこと、読むことの領域の単元ごとにバランスよくまとめられているように感じております。

そのほか幾つもあるわけですけれども、教科書のつくり方として、学びやすさということになれば、それぞれの単元で何を身に付けるべきなのかということが明確に示されているといったところから、教育出版、光村図書出版がよくできているのではないかなと感じております。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

続きまして、田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は、教育出版と三省堂がいいかなと思いました。教育出版は、１４ページの金子みすゞの『ふしぎ』から入っているのですけれども、国語の原点としての言葉というもの、生徒たちに学びの意欲を浮き上がらせるためにはいい題材なのかなと。そして、特にこの教育出版は、言葉遊びを最初から大事にしているので、その辺が非常にいいかなと。そしてもう一つ、「言葉と仕事」というのが 210 ページにあります。言葉がいろいろな力を持っていることを具体的に表現しているところがあって、それもよかったと思います。あともう１点、158 ページの上なのですけれども、「学びの重点」というところで、聞き方ということで、そういうところが非常に、生徒が話を聞いたり文章を読むときに、こういうふうに聞き取ったり読み取ったりすればいいのだなという部分がほかの教科書よりわかりやすいというのがよかったなと思います。

あと、三省堂は最初のところで「つけたい力を確かめよう」という、６ページですけれども、そこが全体に、この題材からはこういったところを学んでという部分が生徒にとっても明確に伝わって、学習しやすいのかなと思っています。

あともう１点、古典の『竹取物語』のところで「楽しみましょう」というふうな入り方

をしていて、古典はなかなか実生活に結びつかない部分があるのですが、やはり日本人として知識というよりも、こういう昔からのものを楽しむという姿勢で古典を取り上げているところがよかったかなと思います。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。続きまして、小林委員、いかがでしょうか。

小林委員

私はこの中で、まず光村図書出版のものです。先ほど渡邉委員からちょっと話が出ていた、言語活動ということなのですが、東京都の調査の集計でも、東京書籍と光村図書出版が非常に数値的に高い状況がありまして、この辺りは大きな魅力かなと思います。やはりページをめくっていきますと、まず初めに小中の連携とか、そういうことに非常に気を使っているという点。それから、最初の８ページぐらいからの「学習の見通しをもとう」という一覧は、やはり基礎学力をしっかり付けるという点でかなり工夫されている部分だと思います。

ただ、国語という教科の性格上、現行の教育出版の教科書で積み上げている部分もありますので、そうした学習指導要領が大幅な改定のない状況の中で、現行のものを変えるかどうかということは、ここで慎重に討議する必要があると思いますが、全体的なバランスなどを見ても、やはり内容的にリードしているかなと。もちろん教育出版も内容的にはいろいろ随所に学力を高める工夫などされていますので、その辺りを比較検討して、慎重に結論をつけていくといいのかなと思っております。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。最後に私のほうから、私としては教育出版か、あるいは光村図書出版が採択基準に照らして中野区としてはふさわしいのではないかなというふうに考えています。特にそれぞれの委員からも、光村図書出版について教科書の使い方などについてとても丁寧な記述になっているというお話もありましたが、中野区の学力調査の結果で、中学生に入りますと漢字や文法等、言語についての知識、理解が、学年が上がるにつれて学習内容が多くなって、習得が難しくなりがちで、大分学力が下がっているということで、国語の基礎でもあり、確実に身に付ける必要があると調査結果でも出ているところでもありますので、やはり言語活動について丁寧に指導できるような教科書が必要かと思います

と、光村図書出版、それから教育出版がかなり丁寧に扱われているのではないかなと考えました。特に教育出版、現行の教科書ですけれども、教科書の扱い方ということで、丁寧な指導があったり、単元ごとに学びのポイントが整理されていたり、「みちしるべ」というようなコーナーで繰り返し学習ができるというような内容になっていました。

それから、３年生の教科書の古典などでは『奥の細道』が題材に取り上げられているのですけれども、光村図書出版については、もうそのまま本文に入ってしまうのですけれども、教育出版については、芭蕉の人となりとか、人生などを解説した後、『奥の細道』の解説に入っていったり、絵と写真がバランスよく入っていたり、それ以外にどんなところを旅したかという記述もあったりということで、ただ単に『奥の細道』を学ぶだけでなく、その背後にあるようなものもわかりやすいということがありましたので、私としては教育出版で引き続き学習するのもいいと思いました。

ほかに補足の意見はおありでしょうか。

渡邉委員

今意見がなかったのですけれども、特に天文学を扱った教育出版の古典などの話とか、言語の活動は、多くは新聞などを、社説を題材にしたりしているケースが多かったのですけれども、教育出版だけが若干違う表現を使われていた。そういったところも評価できるかなとは思うのですが、実際にそれがいいことかという話になると、やはりちょっと違いがあるのではないかと思います。

そして、選定調査報告の中にもありますように、光村図書出版は、教材の扱いやすさとか、使用上の中で学習の見通しを持つことによって目標、計画、見通しを立てやすいとか、巻末の資料のインデックスなどが非常に見やすい。私もこういった点についてなかなか工夫がされているなというふうに思っております。

そういう中では、光村図書出版の教科書が子どもたちにとってわかりやすく、教員にとって教えやすいというような観点に立つといいのではないかなと感じております。

田辺教育長

そのほか、質問や補足のご意見ありますか。

田中委員

今回の選定において、小中連携が大きなテーマだと思うのですけれども、小学校は、国語はどこを使っているのでしょうか。

指導室長

小学校は光村図書出版株式会社でございます。

田辺教育長

私からも皆さんのご意見や、それから選定調査委員会の報告書等見させていただいて、改めて、光村図書出版もなかなか捨てがたいなと思っております。今、読書活動なども中野区として相当力を入れておりますので、その中で光村図書出版が読書活動について、生徒の自主性に任せるような手法をとっているというような報告もありましたので、光村図書出版も中野区の学校にとって教えやすい教科書、学びやすい教科書ではないかと思っているところです。

渡邉委員

先ほど田中委員からお話がありましたように、小学校で光村図書出版を使っているということで、小中の連続とか連携とか考えると、中学校も光村図書出版を使うということは、同じ並びになっているとか、いろいろな意味で使いやすいとか、学びやすいとか、そういう点に違いは、いかがなものなのでしょうか。

小林委員

小学校と中学校が同じものである必要があるかどうかということは、それは様々な考え方があると思います。ただ、やはり内容、その他教材を含めて、そうした関連性というのは随所に見られる部分もあると思いますので、やはりその辺りは小中の連携ということを踏まえることは一つの重要な視点であると思います。

最初にも申し上げたように、やはり基礎学力を高めていく、更には発展的な学習を進めていくという本区の採択基準を考えたときに、私は最初「学習の見通しをもとう」というところでお話をさせていただきましたけれども、そのほか、全体的な紙面構成の中でそういったものが言えると思います。現行のよさもありますけれども、十分光村図書出版のものも俎上に上げて検討していく価値があるものであると考えています。

田辺教育長

ありがとうございます。

ほかにございませんか。

それでは、それぞれのご意見を総合的に判断させていただいて、国語については光村図書出版を採択候補とするということでご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、国語については光村図書出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、続きまして書写について協議を行います。初めに、田中委員、お願いいたします。

田中委員

教育出版のものが生徒にとって扱いやすいかなというふうに感じました。それは、特に一番最初の「目的に合わせて書こう」という１ページからずっとあるのですけれども、ボールペンの持ち方が出ていたりしていて、ボールペンというのは結構、子どもたちは一番、鉛筆とかも含めてよく使って、毛筆というのは大切な知識と技術なのですけれども、やはり合わせてそういったところにも目を向けているところはいいのかなと思いました。

あと、44ページに筆づかいが幾つか出ているのですけれども、非常にわかりやすいなと思います。生徒にとっても図があると具体的にイメージしやすいのかなと思っています。そういう点で、教育出版がいいなと思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員、いかがでしょうか。

小林委員

私は教育出版または東京書籍の二つがよいのではないかと思っています。特に教育出版については、非常に紙面構成上も落ちついているというか、書写は時間も少ないということもありますので、やはり子どもたちにとってインパクトの強い、学びやすいものが特に求められているのですが、そういう点での紙面構成が優れていると思います。特に調査研究などを見てみますと、発展的な学習が非常によく取り上げられているのですけれども、実際に授業の中で行えなくても、教科書を読んでそれぞれ個人的に学ぶという時間も必要かなと思っています。

ただ、東京書籍の場合は、ほかの会社に比べると少し版が大きいのですね。この分、非常にゆとりのある演習になっていると思います。ただ、これは版が大きいから一概にいいかというと、やはり教科によっても様々だと思いますし、むしろ書写は限られたスペースの机の上で置く場合、大きいから安直にいいということは言えないのですが、ただ、この教科書の場合には大きい版でフルに教材をうまく配置して、ゆとりを持って見やすく誌面

構成されているという点が優れているかなと思いました。

以上です。

田辺教育長

渡邉委員、いかがですか。

渡邉委員

私も、この中では東京書籍と教育出版が候補に挙がりました。特に東京書籍、小林委員からもあったように、サイズが少し大きいということと、それとお手本の書き方が半紙の現物大になっているという点は、良いとは思ったのですけれども、ただ、見開きでお手本を置いて、机の上で実際に使うとなるといかがなものかというような点で少し気になったところがあります。どうしても硯を置いて、筆を置いて、それでお手本も置くとなると、現物大であることは非常にわかりやすいのですけれども、少し使いにくさというよりも、置けなければお手本にはならないので、その点が気にならないということであれば、良いのではないかと思いました。

あとは、教育出版は、横に訂正を書いたような、赤で示したのが小さく示されているのも、構成としては非常にわかりやすいのかなと感じています。

また、「生かそう、振り返ろう」というような構成になっているのが、教育出版の中でも非常にわかりやすい、考えようという、非常にテーマを取りやすいようになっている。確かに東京書籍もわかりやすくそうなっているのですけれども、よりわかりやすいなと私が感じたのは教育出版です。こちらの二つに関しては、ちょっとほかの委員の意見を伺いながら、先ほど言ったように、お手本の見方についてちょっと検討したいと思っております。

田辺教育長

ありがとうございます。

私も教育出版か東京書籍が中野区にとってはいいのではないかなと思いました。特に先ほども議論がありましたけれども、東京書籍は版が大きい分、情報量がすごくたくさんあって、いろいろな情報もたくさんあったり、手紙を書くときの宛先で、全都道府県の例があったり、「身の回りの文字を探そう」という写真が 85 ページにあるのですけれども、全都道府県の文字の例が書いてあったりということで、ここまで情報がある必要があるのかなというような情報まで懇切丁寧に載っているというところが、かえって学校にとってシンプルなほうがいいのか、それとも情報量がいっぱいあったほうがいいのかと悩むところではあります。ただ、書写の改定の趣旨というのが、実生活、日常生活で生かせるような教科

書であるということが趣旨であると説明を受けていますので、教育出版のほうでは、例えば、今、渡邉委員からもありましたように、まとめの仕方ですとか、導入の部分が丁寧であったり、単元の最後に各実例がたくさん載っていて日常生活に生かしやすいということでは、教育出版も中野にとってはよいのではないかと思った次第です。

ほかに補足のご意見等ございましたら、お願いします。

田中委員

教育出版ですけれども、93 ページから 95 ページまでに中野の中学校が写真で出ているのも、中野らしい教科書を選ぶということでは、そういう視点も一つ加えていただければと思います。

小林委員

これは副次的な視点かもしれませんが、教育出版の 34 ページあたりを見ると、芥川龍之介の直筆の原稿用紙、それから宮沢賢治の手帳があります。これは、この文字が果たして手本になるかどうかということなのですが、やはり本物の魅力というのでしょうか。それから、最近は直筆のものというのはあまりなく、ほとんどキーボードで打つ時代になっていますので、こういうものが載っているのも一つの魅力かなと思いました。

渡邉委員

いろいろと本の扱いやすさ、中野らしさという意見も今伺いまして、教育出版については、日常生活に役立つという意味では、やはり毛筆も日本の伝統的な文化ではあるのですけれども、現実には硬筆を使うことがほとんどでありまして、そういう意味では、同じページに毛筆と硬筆を生かすような構成づくりというのは、非常に優れているなと思えると付け加えさせていただきたいと思います。

田辺教育長

それでは、書写につきましては教育出版を採択候補とするということでご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、書写については教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

続きまして、地理についての協議を行います。引き続き各委員からお願いしたいと思います。小林委員、よろしいでしょうか。

小林委員

私はこの４者の中で、まず教育出版、それから東京書籍、この二つについて候補として挙げたらどうかなと思っております。まず、教育出版に関しては、実際に様々な調査を見てみると、取り上げている国名とか州別の国名に関しては、やはり教育出版が非常に多くの州や国を取り上げているという点はかなりリードしていますので、グローバルな社会の中において、これは大きなポイントではないかなと思っております。東京書籍もそういう点ではバランスはとれているのですが、若干取り上げている国は少ないということです。ただ、この２者のいいところは、全体の紙面構成が非常に安定していて、恐らく子どもたちの学習意欲を高めるという点では一番期待できるかなと思っています。

実際に地理の場合には、ほかに地図帳であるとか、資料集であるとか、様々なものを活用しますので、もちろん教科書は主たる教材で、これを中心に使うものではありますけれども、教科書だけで完結しないということを考えた場合には、こういった中身がしっかりしている部分ですね。そういう点で、教育出版をまず最優先して考えてはどうかなと。次いでの候補が東京書籍というような状況でございます。

田辺教育長

ありがとうございます。

続きまして、渡邉委員、お願いいたします。

渡邉委員

私もこの４者の中では東京書籍、教育出版、帝国書院の中で少し迷っておりました。それで、本当にどれもよくできていまして、それぞれの特徴は地理においてはあって、東京書籍については、地図があまり少ないのではないかという形で、東京書籍よりも、それと確認事項が､ステップ１とかステップ２とか教育出版ではあったのが、「確認しよう」、「説明しよう」などというように２段階に分かれて帝国書院と教育出版はあるのですけれども、東京書籍は、そういった学びやすさといったところで、明確に示される部分がないということです。それと、また日本らしさとか、いろいろなところを考えたりとか、地理というのは日本だけではないですけれども、教育出版は富士山が表紙にあるというのもいいかなと思っております。

中を見ていくと、教育出版で非常におもしろかったのが、地球儀があって、地球儀の中で国を示しているという手法をとっている。やはり地球儀で見るというやり方というのはこの教科書だけなので、立体でものを考えるという意味では、一番いいのかなと思ってい

ます。

あと、巻末の資料について、教育出版は資料的な部分と用語の解説があって、こういったところは勉強していく上で使いやすさを感じるのではないかと、私自身感じていたところです。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

続きまして、田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は帝国書院と教育出版がこの中では学びやすいと思いました。帝国書院は最初のページに地球の写真があります。最初に、地球というか全体が示されて、この中でのそれぞれの地域を学んでいくのだということで、非常にいい形の導入をしているのかなと思いました。

それと、各ページに振り返りがあるのは、これは教育出版も同じなのですけれども、例えば、アジア史のところを学んだら、アジア史について学習を振り返ろうというページがあって、そこは生徒たちが大分書き込めるようなページになっていて、これは学習しやすいまとめ方ではないかなと思いました。

それから、教育出版は、統計データが見やすいグラフのように感じました。統計データも帝国書院に比べて少し多いのかなという感じがして、具体的な状況を生徒たちがグラフからビジュアルに理解できるのかなと思いました。

あと、全体のレイアウトについて、教育出版は字が見やすいような感じがしました。

以上です。

田辺教育長

最後に私のほうから意見を述べさせていただきます。私は、帝国書院、教育出版、東京書籍ということです。この３者が中野にとってはいいのではないかなと思ったのですけれども、東京書籍は非常に情報量が多くて、コラムやキャラクターが多いのですけれども、多少煩雑さを感じたり、それから本文できちんと勉強してほしいのに、いろいろ絵や図や写真も多くて、なかなか集中しにくいのではないかなという印象もちょっと持っているところです。帝国書院と教育出版では、その辺はバランスよい配置になっているかなと思うのですけれども、教育出版について日本の国土についての記述がとても丁寧で、詳しく書

かれています。領土ですとか、それから排他的経済水域などについても詳しく解説が出ていて、これからの子どもたちにとっては、こうしたことについてもきちんと知識として持つという意味では、教育出版はこの点については丁寧な説明があるのではないかなと思いました。

皆さんのご意見を伺いますと、様々なご意見ありましたけれども、全体を通して教育出版ということで、大体意見が一致したかと思いますが、地理については教育出版を採択候補とすることにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、地理については教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

次に、歴史についての協議に入らせていただきます。まず、渡邉委員、お願いいたします。

渡邉委員

歴史については８者の中から選ぶということで、私自身の観点としては、いかに公平に公正にというようなことを少し注意して見てまいりました。そういった中で見てきたところで、育鵬社については、しっかりと調査して教科書を作ってきているなと感じております。また、東京書籍及び教育出版について、教科書としての本という意味ではうまく作られているのではないかなと思います。中でも、やはり思考力とか判断力とか表現力に関して、「学習のまとめと表現」のところで、教育出版が非常に丁寧につくられているのではないかなと思いました。そして、領土問題についても、歴史的な経緯について記載されているわけですけれども、他国を尊重した書き方、そして平和を認識して発展に寄与するような考え方、両国の面に立っての意見を述べて公正に表現されているという点では、教育出版と東京書籍は非常にしっかり書かれているのではないかなと感じております。

中でも太平洋戦争についての記載については、育鵬社はかなりしっかり書かれていると感じております。ただ、そこまでしっかり書く必要があるかと言われると、そこについては意見が割れるところかなと思います。かといって、東京書籍、教育出版においては書かれていないというわけではないので、そういう意味では適正な分量が記載されていると感じました。

あと、現場での使いやすさとか、調査研究の内容をちょっと読んで見ると、やはり東京

書籍、教育出版が教えやすい教材という意味では優れているのではないかなと感じて、内容的には教育出版、東京書籍、育鵬社を検討したわけですけれども、東京書籍、教育出版がやや教科書としてはつくりがしっかりしているのではないかなと感じました。

田辺教育長

ありがとうございます。小林委員、いかがでしょうか。

小林委員

私もこの中で採択候補に挙げたいのは、現行の教育出版と育鵬社、また東京書籍の３者がそれぞれ特徴があっていいのかなと思っております。それぞれに特色があって、やはりどういう視点で選ぶかということになると思うのですが、やはり今の教育の主流を考えたときに、体験的な活動であるとか、いわゆるアクティブラーニングの視点ということを考えたときに、その一つの土台となる言語活動をどうようにうまく取り入れているか。この点では教育出版が一番、数的にも非常に優れていると思います。この点は、今３者に挙げませんでしたけれども、日本文教出版も比較的こういう点ではいいものがあるなとは思っております。

一方、歴史の場合には、人物をどれだけ取り上げるかというのが非常に大きな視点になると思います。小学校の場合には、学習指導要領で 42 人、具体的に絞って最低限この歴史上の人物を学ぶということになっているわけなのですが、中学校の歴史的分野になりますと、その数ではなく、桁違いに多くなっていきます。東京都教育委員会の資料などを見ても、育鵬社は取り上げている人物の箇所は 722 か所。今、私がもう一方で推している教育出版が 502 か所ということで、この数としては歴然として育鵬社が勝っていると。ただ、これはいろいろな考え方がありまして、書物としてたくさん出ているのは非常に優れているという言い方もできますが、教科書としてどうかといった場合に、ただ多いものがいいのかという判断も、やはり私たちは冷静に見ていく必要があるかなと思っています。その両者の中間をうまくとっているというのでしょうか、東京書籍はバランスよく構成されているかなと思っております。

あとは、育鵬社はかなり全体的に教科書として子どもが学習意欲を高められるような工夫をしてきていると思うのですが、そういう子どもの学習意欲を喚起するという視点では、教育出版の紙面構成は他者をリードしているのかなと思います。具体的に言うと、「ふりかえる」という部分ですね。これが２段階になっていて、基礎的なものを振り返る、そして発展的な意味で振り返る。こういったものが随所にというか、ほぼ全ページに見られると

いう点は、子どもたちが一つ一つ学んでいく上で学力を定着させるという点で非常に重要な視点なのかなと思っております。

以上です。

田辺教育長

田中委員、いかがですか。

田中委員

私は、今回、歴史の教科書を選ぶに当たって、歴史的な事実を淡々と伝えるような教科書がやはり生徒たちにもいいのかなという思いで、教育出版と日本文教出版の２者がいいかなと感じました。教育出版は各時代の終わりに「学習のまとめと表現」という内容があるのですけれども、非常にその時代をうまくまとめてあって、また、例えば51ページの下のほう、「自分なりの言葉で説明しよう」というふうな、こういったところが非常に、一つ一つの時代をまとめていく上でいいかなと思います。

それから、オリンピックについての記載が充実していて、しかも今度の東京オリンピックだけというのではなくて、将来にわたってという視点があったところもいいのかなと思いました。

それから、日本文教出版もなかなかいいなと思ったのですけれども、例えば、「先人に学ぶ」というふうなものが随所に出てくるのですが、例えば30ページに「日本の食生活のルーツを探る」というところで、吉野ヶ里遺跡の話が出てきたり、そういうふうに現代と過去とがつながるような部分を、この「先人に学ぶ」というところで表していて、生徒にとってこういうつながりがあっておもしろいのだなというのを感じるきっかけになるのかなと思いました。

それから、「確認」と「活用」は各見開きごとにあって、これは１時間授業を聞いて、この「確認」と「活用」でその時間を有効にまとめられるのかなと思いました。

あともう１点、災害の歴史に学ぶということで、274 ページなのですけれども、私たちの未来に生かすという視点が非常に強く出ていて、災害があったという事実だけでなく、それを将来へという部分の記載があって、これはいいなと思いました。

以上です。

田辺教育長

歴史については、小学校でも学びますので、小・中の接続ですとか、それから学習指導要領の中でも大きな柱になっています問題解決型の学習ができやすいかというようなこと

も大事な視点かと思いました。

こうした中で、特にそれがふさわしいのではないかと思ったのが東京書籍、教育出版、育鵬社です。特にこの３者は本文と写真と資料がバランスよく配置されていて使いやすいですし、見開き２ページで簡潔に配列してあって学習しやすいというような中身で、そのページで完結していて、その内容を生徒に課題が提示されているというようなことで考えて、自分で考えて自分で解決をしていくという学習しやすい３者ではないかなと思いました。

その中で特にバランスがいいなと思ったのは育鵬社です。今お話ししたそれぞれの各ページの構成はそういうことで成り立っているわけですけれども、それ以外に、「なでしこ日本史」といって、女性だけでなく、それ以外の人物も紹介されているのですけれども、女性の視点から、その時代、その時代で活躍した女性が紹介されています。また、歴史人物Ｑ＆Ａということで、人物が多いということもあるのでしょうけれども、やはり日本人として知っておいてほしい人物について、丁寧な説明がなされています。それから、読み物の資料の数ですとか、絵や写真も充実をしているということで、学習意欲を高めるような構成になっていると思いました。

３者比べてですけれども、例えば、黒船来航のところでは、同じような記載と絵や写真が載っているのですけれども、このページを３者比べまして、特に育鵬社は絵や写真で日米両国の事情がとても詳しく説明をされていました。日本側の受入れの人物も、阿部正弘が紹介をされていたり、これはとてもいいなと思ったのですけれども、当時のアメリカから見た日本人観というのがペリー艦隊の報告として書かれていて、日本人は非常に勤勉で器用である、外国人による改良を素早く観察、理解して、非常な巧みさと正確さによってそれを模倣するというような解説があったり、日本人女性の多くは男性と同じようによく進んだ知識を持って、女性独特の芸事や日本固有の文字にもよく通じているなどという、なかなかほかの教科書にはないような記載もあって、そういう意味でもバランスのいい教科書だなと思った次第です。ですので、育鵬社は中野区の子どもたちにぜひ学んでいただきたい教科書だと思いました。

他にご意見ございますか。

渡邉委員

今、教育長が言われたように、私も育鵬社の教科書については、非常に写真についてはほかのものに比べて数も多く、きれいな写真がいいなと感じました。

教育出版と育鵬社の２者について言いますと、育鵬社の歴史への導入の仕方が「歴史モノサシ」という形で、これは非常におもしろい記載の仕方だなと思いました。これも非常に興味を持ちやすいなと感じて、そしてその後に人物のＱ＆Ａカードという形で、歴史に導入するには非常にわかりやすい。ただ、資料を調べなければわからないという点がありまして、教育出版だと表紙の開いたところから歴史的人物が写真になって出てくると。歴史を覚えていく上にはこういった視覚に訴えていくという点についてはわかりやすいなと思っております。

それと、教育出版のほうの歴史の移り変わりの中で、やはり見方として歴史にアプローチとか、ちょっと趣向を凝らしたような、歴史に興味を持たせるような内容が記載されている点については、教育出版は優れているかなと。ただ、本当に育鵬社のつくりもとてもよかったように思います。

育鵬社について、中野区にも関連のある新渡戸稲造の記載が含まれている点は、中野区という観点から見ると捨てがたいなというところは感じておりました。

そういう意味では、教育出版、育鵬社ともによくできている教科書かなとは感じております。

以上です。

小林委員

内容的なものでいろいろ特徴がありますので、それぞれのよさがあると思いますが、私は今回、非常にどの教科も紙面構成について、子どもたちが見てどうかなという点を大きく取り上げているのですが、例えば、私が今考えている育鵬社、東京書籍、教育出版の三つで同じ箇所、天下統一のところですね。ちょうど織田信長と豊臣秀吉の部分ですけれども、教育出版では 98 ページ、それから東京書籍では 106 ページ、育鵬社では 108 ページ。この三つを比べると、ちょうど上には長篠合戦で、左側が鉄砲隊の織田軍で、右側が馬を使った武田軍ですね。この合戦の様子が出ています。こういう紙面を見ると、やはり内容として非常に育鵬社は丁寧に取り上げているのですが、見やすさという点ですと、例えば、注の数字が打ってあるのですけれども、これについては依然として教育出版が見やすく、色がはっきりと違って、注の１番はこの教科書が一番教えやすいですね。それから、先ほど話が出ていた時代スケールは左上にしっかり出ている。

こうやって比較してみると、やはり子どもたちにとって学びやすいということを考えたときに、この３者の違いがわかってくるかなと思うのですね。こういう点を考えたときに、

中身ではそれぞれ、非常にいい内容のものが出ているのですが、やはり教科書としてどうかという部分をもう一回私たちが見て判断して、これでいいかどうか。その部分が問われるかなと感じています。

田辺教育長

私も付け加えさせていただきますと、それぞれの教科書がそれぞれに長所を持っていると思うのですけれども、やはり小学校から上がって中学校になって歴史というものをもう一回学び直すときに、なるべく段差がないほうがいいかなとも思っていまして、そう考えますと、育鵬社の各章の初めに「鳥の目で見る」とか、「虫の目で見る」というコーナーがあって、各章ごとの概観をするのですけれども、歴史の流れから見るのと、それが鳥の目で見る、それから虫の目で見るということでは、絵巻物などいろいろなところに観点を、見どころを示して、その時代ごとの特徴を子どもたちに自分なりに考えさせるということでは、小学校から段階を踏んで歴史に入っていくという流れがスムーズなのではないかなと、育鵬社の教科書では思っているところです。

また、先ほど渡邉委員からもありました、新渡戸稲造の人物像についてのコラムがあって、それは中野区の子どもたちには、こういうことも理解しておいてもらいたいなというふうに思った点です。

田中委員

いろいろ委員の方々の意見を聞いて、育鵬社の教科書をもう一度見てみたのですけれども、教育長が言われたとおり、確かにしっかりと書かれていて、情報も多くていいと思うのですけれども、一方、この見開き１ページの中で１時間で何を学んだらいいのか、これだけは押さえていこうという部分については、教育出版のほうが少し生徒にとってという視点からはわかりやすいかなと感じました。しかし育鵬社について、情報はすごくよくまとまっているのではないかと思います。

小林委員

生徒が学びやすい、又は学習意欲を高めるという視点でもう一度振り返ってみると、渡邉委員もふれていらっしゃいましたけれども、教科書の最初のほうにそういった学び方について各者工夫しているのですが、育鵬社もいろいろとそういうところは押さえているのですが、比較すると教育出版のほうが工夫されて、子どもたちの歴史に対する興味関心が深まる紙面構成になっているというふうに言えると思います。特に歴史へのアプローチであるとか資料の見方などは、子どもたちにとっても小学校の歴史とまた違う深い学びがで

きるのだという期待感を抱かせるような取り扱いになっているというのが魅力なのかなというふうに感じました。

田辺教育長

ありがとうございます。それぞれ優れた教科書だと思うのですけれども、やはり育鵬社の教科書について、最後のところで子どもたちに歴史を、自分が主人公になって体験してみようというような取組がありまして、例えば歴史新聞をつくろうとか、歴史のロールプレイをしてみようということとか、それから日本の歴史の重大事件を選ぼうということで、日本の歴史を体感して自分自身で考えて歴史を学んでいこうという姿勢が非常に見られるのではないかなと思っています。

また、最後に、日本という国がとても新しいものと古いものが共存して、いい意味で現代に歴史が息づいているというようなことが書かれていたり、それから、東西の文化が融合しているような記述があったりということで、時間的な縦の軸、それから空間的な広がりの中で、日本という位置を確かめさせているというようなことで終わっていて、これからこうした日本の文明の担い手として生きていくのだよというように背中を押すような内容になっていて、日本の子どもたちにとっては、あるいは中野の子どもたちにとって、日本人として生きていく上で学ばせる教科書ではないかなと思ったところです。

ほかにございますでしょうか。

渡邉委員

歴史については、私自身も少し迷いも生じているのですが、また機会を見て、もう一度見直してくるということで、一旦保留にするということは可能なのでしょうか。

田辺教育長

渡邉委員から提案がありましたけれども、まだ採択協議の時間はございますので、歴史については、次回以降、再度協議したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、歴史については次回以降、改めて協議することとします。

それでは、次に公民についての協議を行います。

初めに小林委員、お願いいたします。

小林委員

それでは、公民ですけれども、私は現行の教育出版、更には育鵬社、そして東京書籍、

この三つに関して候補に挙げたいと思っています。特に教育出版で、特筆すべき部分は、やはり子どもの立場に立って考えると学びやすい。それが特に新聞をうまく活用するとか、日常の教育指導に直結するような紙面構成が随所に見られるということであります。特に新聞の活用、最近子どもたちはやはりインターネットになれ親しんでいるせいもあって、新聞に触れるという機会が少ないのですけれども、やはり新聞を活用した教育というのは非常に重視されていて、中野区内でも行われておりますので、そういった点では大きな特徴があるかなと思っています。

それから、育鵬社に関しては、非常に全体的に内容的にも取り入れられている箇所が大きい、ボリュームのある内容になっています。これはやはり指導する側からすると大きな魅力であると思います。ただ、これは歴史でも言えるように、もろ刃の剣でありまして、それが果たして指導に適しているかという部分を、私たちはもう１回検討していく必要があるかなと思います。やはり歴史と同様に、その中間のうまくバランスをとっているのが東京書籍の教科書かなと思います。内容的には取り上げている数もバランスよく、それから紙面構成もうまくカラー刷りを使って読み手、特に子どもがすっと入っていけるような状況になっていると思います。

田辺教育長

田中委員、よろしいでしょうか。

田中委員

私はこの７者の中から教育出版と育鵬社が適しているかなと感じました。まず、教育出版のほうは、表紙に「ともに生きる」と書いてあって、これが非常に、公民全体のことを表していていいサブタイトルなので、教育出版の全般にこういった視点が通っているかなと感じて、いいかなと思います。

それからもう一つ、「学習を始めるにあたって」という巻頭の図が、幾つかの出版社も同じような図を載せているのですけれども、私は、教育出版のこの図が非常にわかりやすいなと思います。

あと、例えば、司法権の独立と裁判のところ、これは 94 ページになるのですけれども、非常にシンプルで生徒が理解しやすい内容かなと思います。

それから、これも大事なことだなと思ったのですけれども、190 ページから、「世界の一員として」、その次のページから「民間から始める国際支援」、あるいは「終わらない地域紛争」、あと「多様性のなかで生きる」という記載があります。こういったところは非常に、

これからの生徒が生きていく上でしっかり身につけておかなければいけない視点で、取り上げ方としていいなと思いました。

それから、育鵬社のほうは、「私たちを取り巻く課題」というのは、なかなかうまくバランスよく出ているかなと思いました。

それから、先ほどお話しした裁判の仕組みが、対照的に、とても丁寧に書かれていて、これからの社会で裁判が非常に大事になってくると思うのですけれども、丁寧な記載でいいかなと思いました。

それから、「考えよう」というコラムがあって、例えば69ページに、東京オリンピックの誘致の佐藤真海さんの「だれもが活躍できる社会へ」ということで取り上げられています。それからもう一つ、198 ページの環境問題も、日本ができることといった視点があります。こういう「考えよう」というコラムがところどころ出てくるのですけれども、身近な問題として公民を取り上げるという意味では非常にいいかなと思いました。

また、教育出版の巻頭の５のところに「点字のしくみ」というのがあって、実際に触って点字がわかるということも一つ公民の大きな力になる体験かなと思いました。

以上です。

田辺教育長

渡邉委員、よろしいですか。

渡邉委員

公民という言葉は中学校になって初めて出てくる言葉なので、これについては、先ほどほかの委員の方も言いましたように、１ページ目、公民についてどの教科書も書かれておりました。その中で私が注目というか、よいなと選んだのは東京書籍、教育出版、育鵬社です。中立であって公平に物事が書かれているか。公民というものは何かということで、まず１ページを見てよくできているのは、育鵬社なのですけれども、育鵬社の３ページ目に地球儀のような図が出ているのですけれども、これに似たような図が出ているのが教育出版です。上下に、歴史と地理と公民という分け方をしているのはおもしろいなと思い、この２者については公民の学習を始めるに当たっての入り口はなかなかいいのではないかなと思いました。

そのほかに、公民の分野を確認することが重要なのかなということで、目次に注目をさせていただきました。東京書籍の第１章目は、「現代社会と私たちの生活」なのですけれども、教育出版は「私たちの暮らしと現代社会」と、「私たち」を基点にものを見た現代社会

と表されています。それで育鵬社も「私たち」という、自分たちを中心にした観点の捉え方でものを書いています。

そうやって見ると、教育出版について、次の１－１で見ると、「私たちが生きる現代社会」、３が「私たちがつくるこれからの社会」となっています。育鵬社は、「私から見える現代社会の日本」で第１節目は始まるのですけれども、「世界とかかわる私」、「情報から現代を知る私」と、「私」が後に来るものもあります。教育出版の場合はそういった視点の統一性がとられているなと、目次からは推測していました。

第２章については憲法なのですけれども、ここは育鵬社のほうが、「私たちの生活と政治」、「日本国憲法の基本原則」という形で、全面的に憲法を出していない。教育出版のほうが「人間を尊重する日本国憲法」、東京書籍のほうも「個人の尊重と日本国憲法」と、出だしに関しては憲法について強い言い方をしているのは東京書籍と教育出版でした。

ただ、内容を見ると、日本国憲法について詳細に記載されているのは、育鵬社です。

それから、領土についての記載については教育出版と育鵬社の内容がいいのではないかなと私は感じております。特に育鵬社については、インターネットとかグローバルのツールを使うところで、ウェブサイトの記載がなされている。そういう意味では、中学生になってインターネットを使っていろいろと資料集めをするに当たっては、こういった情報提供はこれからのあり方なのかなと感じています。

あと、言語活動に関する記載については、育鵬社については少ないというような評価を受けていて、確かにそのようなところが感じ取られるかなと思っております。

そういう意味では、教育出版及び育鵬社についてなかなか甲乙つけがたいかなと感じておりました。

田辺教育長

ありがとうございます。

最後に私からですけれども、見開きで１時間を基本として学習課題やまとめの課題がわかりやすく明記されているのは、東京書籍と教育出版と育鵬社というふうに思いました。特に皆さんおっしゃっていましたけれども、育鵬社は冒頭、公民を学ぶということで、公民とは何かということをとてもわかりやすい時間的な軸と空間的な軸で、自分がどこの位置にいるのかということ、歴史的な中で自分がここにいるのだということ、あるいは、地理的な空間の中でここにいるのだというような、位置の中で自分の存在や役割を考えてさせて、斜めの軸で公民として、家族、地域社会、国家、国際社会という広がりの中で自分

がいるのだというような、とても斬新でわかりやすい解説がありました。

それ以外に、表紙の話を田中委員がされておりましたけれども、写真の扱いはそれぞれの会社の特徴があっていいと思うのですけれども、育鵬社については、災害の写真が二つ載っているので、今の日本人のあり方についてとても考えさせる取り上げ方ではないかなと思いました。それ以外には、公民についても言語活動ですとか、それから問題解決型の学習を取り入れていかなければいけないという中では、人生ものさしということで、自分を考えさせたり、ワークシートを使って考えさせたり、それから、各章ごとに「やってみよう」とか「理解を深めよう」とか「考えよう」というような、課題を解決していくような設問が幾つもあって、探求的な活動も促されているのではないかなと思いました。また、それ以外に、各ページの欄外に語句の解説があるというのも、とてもわかりやすいのではないかなと思ったところです。

教育出版や東京書籍についても同じようにいろいろな工夫がされているのですけれども、教育出版については、多少全体の色が薄いかなという印象がありましたのと、東京書籍については、とても資料がたくさんあって充実している反面、煩雑になりやすかったり、それから、表や資料が多く本文の量が少なくて、ちょっと学習しにくいかなという印象がありました。

私からは以上です。

では、皆さんから意見をいただきましたが、まだ全体としてご意見がまとまっていないところもあるというふうに感じておりますし、それぞれのご意見を踏まえてもう少し時間をとって研究もしていきたいと思っています。公民については次回以降に再度協議したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、公民については次回以降、改めて協議を行うこととします。

それでは、本日の協議はこれで終了させていただきます。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第４回臨時会を閉じます。

午後９時２２分閉会